

Contents

- 固まる *3
- 平日ローテーション *4
- ポエミー *6
- 傷は浅いぞ *8
- 一をつけよ *9
- クスリisk *10
- ついていけない *11
- 引きとめたし *12
- 王様の耳は *14
- 永遠とは *15
- ここにいる *16
- 暦に *18
- 妙に男前 *19
- 夢魔 *20
- あとがき *21

固まる

波風を立てずに歩く水の上

無理ですよやっぱり濁る水の中

かき混ぜて行きましょうとは怒声下

前後ろ右も左も動けない

君が怒らせたんだよとすまんこれ

平日ローテーション

八宝菜かけてあんかけ焼きそばに

足りないぞ僕にはそれじゃ他の物

五目飯焼き鰯つけてビールくい

ハンバーグ鮭のムニエルハイボール

夏さらば冷やし中華が老い送る



ポエミー

誰も呼んではくれないので
自称詩人を名乗っている

多少は呼んでくれる人も
いるかもしれない

多少、他称詩人
なんつって

一人でウケてる～
ええ、ぼっちですからね

自他の境界につまずくのだ
そこに詩が生まれ

下町のナポレオンやつてます
家の中では

そりなんだ、王様～
君が来るなら下僕にならねばならぬ

当然、誰も来ない

傷は浅いぞ

発狂徒やはり宗教じみた群れ

大事とも思ってないから言継がず

君は好き僕は嫌いでいいじゃない

ーをつけよ

生きるのが辛いというのも
経済的に辛いというのもある
これについては好景気を望むばかりだ
思惟的に辛いというのもある
これについては Be a rock star (?)

大体、僕は経済的にも思惟的にも
満足してしまった人なので
かける言葉が見当たらないのだった

辛いに一本線を引けば幸いだ

こういう微妙な遊びに
君が丸め込まれなくともかまわない

クスリストク

中国ドラマで政敵を倒すために
毎日微量の毒を盛り
病死に見せて死なすというのが
わりとある
歴史、毒薬詳しそうだなあ

中世と
あまり変わらないの
かもしれませんね
毒を盛られて
死にそうな僕

壊れてしまった
どこが
内臓が
物理的ですな
そうですな

ついていけない

ワイの言うとおりにしてたら
ええねんでっていう関西の人
好きと思う
とても言うとおりにする気に
なれない感じの

こうしたらしい
こうしないのがバカだ
とバカが述べるのを聞くのは
思いのほか苦痛だった
女のどこがやわらかい

瞳の色が深いって？
薬のせいかな
目を見ればわかるって
あるいは昔、受けた
恐怖のせいかな

引きとめたし

ぼんやりとした将来の不安のために
死んでしまうなんて

僕なんて具体的な不安しかないのに
生きています

父母がいなくなったら
自活力のない僕はどうすれば

情けないこと言ってないで
飼い主に先立たれるペットの気持ち

雨が降っている、散歩は行けないな
よしよし飲むか

ウェイトフォーミーと犬
凡百にこの引きは出せまい



王様の耳は

仕事などでは必死に役割を演じ、家に帰ってネットで本音をぼやく。これはまだいい。というか本来の使い方だ。しかしネットですら仮面をかぶり、本音は表す場所がなく、近しい舍弟をしづき倒す。これはまずい。言いたいことを言えないという風潮は、よくないのだ。大戦中もそうだったと聞く。言いたいこと言わせといたら、このざまなんですよ。そうなんだ。言うの行為が簡単になっている。ネットのせいで。速い、速すぎる。今の子は送信ボタンの重みすら感じないやもしれぬ。

永遠とは

私は調和をもたらしに来たのではない
争いをもたらしに来たのだ

帰ってくれ、と
無理からぬことだった

とわ
永遠とは十和
十和色のハーモニイのことぞ

和すのはいいですねえ
けれど十人十色のところ
そう簡単に和せるでしょうか

むしろ居酒屋などで
愚痴、不平、不満の種は尽きず
楽しくなってきちゃって

人間味があって好きだなー

ここにいる

くそぅ、近所のスーパーが一軒潰れただけでこのざまだ。

歩いて行ける距離、安さ、おいしい肉海鮮。完璧だったものを。

実は近所にもう二軒スーパーはある、十分じゃないかな。

しかしおいしい肉海鮮が。世界は大戦中ですが、うが。

不足は少し遠出のスーパーで僕が買おう、頻繁に散歩して。

物価は上がるし、いいことないね。歩けば血圧は下がるよ。

庶民の創意工夫でこんな暮らしがとか、戦時中みたいでいや。

戦時中だった。煎じ詰めればどこへ行くのか。爆発はなしで。

暦に

心細くなっていくのは
日が暮れるからだ
寒いからだ
暗いからだ
人生と重ね秋

子も生まれ
君のお家は
上る春
ライジング・サン
じゃないか

春売って
酒浴びてなお
恋に操を
立ててたと
知ってる

妙に男前

張り詰めた空氣
男前な顔をして
足早に歩く、俺
トイレに急ぐ俺
少し怖いですね

緩んだ顔をして
は～んと嬉しげ
トイレ出た、俺
ぴりついてちや
いかんよ、君達

夢魔

夢のような世界

夢なら覚めてくれ

変わった点を逐一挙げることに

さほど意味はない

変わったのが是か非か判断し

是ならそこから何が見えるか考えればいい

豪州の位置

これだけで是とするに十分に思える

であればどうか

平行世界が交わったということか

現代人の僕はサーバーチェンジも浮かぶ

では現実がデジタルの如きだと？

ただ変わった認識はあってもいい

階段の段差が少しあればそこで転ぶからだ

あとがき

薬はリスクである。またクスリと笑うは好くところ。なんてダジャレのタイトルで。思えば僕の詩からダジャレを抜いたら、何が残るだろう。いろいろ残っていてほしい。

この詩集は今年の八月から十月にかけてネットに投稿した詩、十四編を収めた。

世界情勢は依然として厳しいが、個人にできることは己の生活を守ることくらいなので、日常風景の詩をいくつか。日々の雑事を楽しめている今が愛おしくもあり。気の向いたときに好きなように書いているだけでも、すぐに溜っていく詩なのだった。

そうも言っていられないほど酷くなりうる。あるいはもう、そうなっている。と思いつつ、どうしよと物を書いている。呑気さで一息ついてもらえたうれしい。

2022年10月15日

多田龍介

クスリisk



2022年10月16日 初版発行

著 者 多田 龍介

発行者 多田 龍介

発行所 明水工房

©Ryusuke Tada 2022

